

平成 24 年度第 1 回花巻市教育振興審議会 質疑応答

○花巻市教育振興基本計画平成 23 年度主要事業の実施状況について

・ 2-(1)-6 緊急雇用創出事業について

坂本委員 山岳博物館の所蔵資料は今後施設等で展示する予定はあるか。

中村課長 山岳博物館の資料は総合文化財センターに収蔵・展示している。総合文化財センターの 3 分の 2 は山岳博物館のものを展示している。

・ 1-(3)-4 児童・生徒表彰事業について

新渕委員 児童・生徒の自己推薦による表彰はいかがなものか。学校で自己申告することになっており、昨年、自分の子どもが自己申告し忘れたために表彰されなかった。

佐藤課長 推薦基準に適応する児童・生徒を学校から挙げてもらっている。

推薦基準に適応している児童生徒が表彰されなかった場合は、表彰式の後にも追加で表彰状をお渡ししている。

教育長 これまで本人からの申告で表彰したということはない。漏れがないように、学校が承知していない様々な大会を把握するために実施したものだと思う。

・ 1-(1)-1 小中学校学区再編成等調査事業について

新渕委員 笹間第一小学校も太田小学校も幼児・児童数が減ってきている中で、単に笹間地区だから笹間第二小学校が笹間第一小学校に統合するという考えだけでなく、もっと広域的に見て欲しい。児童数が減って空き教室が多い学校は他にもたくさんあるはずだ。地元の人たちがどういう思いをしているかも聞いて欲しい。

教育長 西南小学校について頭にあるようだが、まだ先の話。まずは、笹間第二小学校の児童数が 20 名ということで、事業がやりにくく、児童になすべきことをできていない状況を早期に解消したい。

昨年度花巻市内で亡くなられた方が 1,260 名もあったのに対し、生まれた方は大迫 18 名、石鳥谷は 72 名、東和は 42 名、旧花巻は 430~440 名であった。かつての花巻小学校の一番多い学年は 540 人であり、旧花巻でもそれよりも少ない。少子化の現状、さらには市全体の人口減少について、市民の皆様に直視していただく時代が来た。

笹間第二小学校については、7 月 24 日にも保護者の方との話し合いの場を設け、さらに統合に向けて話し合いを進めていくこととなった。大迫についても、市政懇談会で亀ヶ森の住民からは統合を進めてほしいと言われた。学校は子どものため、地域のためにあるという軸足の置き方によって、学校統合に対する認識、結論が変わってくる。

衣更着委員 統合は近くの学校同士でという考えが進みがちだが、長い目で見れば分からない。子どものためには、生徒数の確保は大事。クラブ活動なども規約を設けてやらなければならない。ぜひ、懇談の場を設けて、広く意見を聞きながら、地域をどうするか考

えていってほしい。

教育長 学校統合については、避けては通れないのも現実。平成19年8月に作成した方針に沿って行っている。学区再編検討委員会は引続き存知しているので、しかるべき時期にまた動かして新たな視点の再編に取り組んでいかなければならない。

大迫中学校は生徒数の減少が続いており、さらに今現在一番生徒数が少ないのは湯口中学校で、これもまた、減少が続いている。既存の学区という概念では、今後やっていけない。廃校になる学校は30年後を見ても明らかに出てくる。先を見越してやっていかなければならない。ただ、学校として持つべき機能はしっかり持っていくように、大胆にやっていかなければならない面もある。中学校も再編を考えていかなければならない時機がもうすぐそこまで来ているということも事実である。

・1-(1)-8 公立高等学校創立記念事業補助事業について

衣更着委員 事業費が2校で1千万円あるが、内訳はどうなっているか。

教育長 補助金として支出したもの。それぞれの実行委員会が実施した事業に対する財源補助である。記念誌の発行、記念集会、記念事業を実施した。補助の目安は、3分の1～4分の1。

・1-(1)-3 小・中学校施設維持事業について

小原委員 耐震化率100%になっている市町村に花巻市が無かったが、対応できていない学校はどこか。また、トイレ洋式化の完了はいつを目指しているのか。自分としては、次はエアコン等、果たしてどこまでのサービスをしていくか疑問である。市としては、衛生を守ることができればいいのではないか。

教育長 改築計画に入っている湯口中学校・大迫中学校を除いて、終了している。実質100%。合併時の約束により、順番は大迫中学校、湯口中学校であるが、大迫の諸般の事情によりなかなか着手できない状況にあるため、ご理解いただきたい。

トイレの洋式化については、生徒たち自身が悩んでいる。各家庭のトイレが洋式のため、子どもたちが和式を怖がり、学校でトイレを使用できず真っ青になって家に帰ってくるということがあり、各家庭からの要望も多くあった。都市計画区域内だけでなく、農業集落排水が進み、洋式化が進んできたという実情に合わせた形である。サービスの充実というよりは、子どもたちの教育環境の整備の一環ということでご理解をいただきたい。

・1-(3)-6,7,8 国際化教育推進事業について

小原委員 交流できることは、子どもたちにとっても財産だと思うが、これからの子どもたちにとって必要なことは、花巻の財産を教えていくことではないか。花巻に誇りを持った子どもたちが少ないことは、非常に残念であり、それも一つの少子化の要因ではないか。花巻の良いところはたくさんあるので、授業で目を向けて欲しい。

教育長 副読本を市として単独で作成しており、それらをベースに地域の歴史を学び、何より足を運んで学ぶことをしている。日常的にも市のバスを動かして現地を探索、ある

いは生徒を歩かせて学区内の神社や企業を小学生が歩いて見て回ることもやっている。いずれ、郷土を愛することは当然のことであり、ましてやオリンピックの一流選手が他国の選手と会話をする時に、母国の歴史を語れないことはもの凄く恥ずかしいことだ。郷土だけでなく、母国も語れるようにしていかなければ、真の国際交流は生まれない。

・1-(3)-9 教育用コンピューター設備整備事業について

瀬川委員 情報化時代に即して整備していると思うが、子どもの方がスキルが上達しており、親の方が使い方を分からないという声もよく聞く。整備事業とともに、正しくコンピューターを使うことを、生徒はもちろん保護者にも講座や企画などの教育が必要だと思うが、現在どのようなことが行われているか。

佐藤課長 総合的な学習、技術の時間に活用しており、正しいパソコンの使い方、例えば有害なサイトのことについて等の学習を実施している。学校によっては、保護者とともに講習会などの学習を進めている。

・学校生活アンケート調査について

瀬川委員 自分の生活を見つめ直してみると、大人の視点から決めていることが非常に多い。学校生活アンケート調査は子どもの視点で集約している非常に大切な指標だと思う。年に一度だけの実施でいいのか。

また、今、いじめ問題が社会問題になっているが、教育委員会ではどのようにいじめ問題について掌握しているか。

佐藤課長 状況に応じて、回数については検討したい。

いじめ問題については、毎年各校からいじめに関する報告を受けて、確認している。今のところ重大な事案はなく、件数も市内は極めて少ない状況だと把握している。いつ、どこで起きるか非常に見えにくいものなので、各学校で面談をしたり、保護者からの情報を受けたりして、子どもたちの様子をしっかりと観察・把握するようにしている。心配な場合は、学校で共同体制で取り組む、あるいはすぐに教育委員会と連絡を取り、確認しながら対応していくことに努めている。

・1-(4)-3 特別支援教育推進事業について

三井委員 発達障がいがある子どもたちが増えているように感じている。学校でも、校内委員会を設置したり、巡回相談を実施したりしているようだが、実際に上手く機能しているのか、実態把握はできているか。

佐藤課長 専門家チームと巡回相談チームを設置し、各学校・保護者から相談があった場合、実際に巡回して相談を受けている。巡回相談は年々増えており、内容は様々だが、行動観察や検査、保護者との相談等全て含め、延べ人数で900回を超えている。市の就学指導委員会にかかる児童生徒についても増加の傾向であり、特別支援学級・特別支援学校的という判定が出て、親の意向により通常学級でという児童生徒が、40名いる状況。大きな課題なので、取り組んでいる状況である。

教育長 平成 21 年に就学養育課が発足し、公立の保育園・幼稚園の運営を一元的に、教育委員会で行う体制が整った。特別支援の児童生徒が増えたのは、検査体制が充実したことにもある。年々減少はしてきている。保育園と幼稚園、保護者と連携をとりながら就学児まで検査しているが、小学校に入って夏休み以後にいきなり発症する例もある。なかなか難しいものだが、ベストを尽くしている。

夫婦で意見が一致しないような家庭もあり、学校も苦労しながらやっている。支援が必要なお子さんには、我々としてできることは学校共々ベストを尽くして、人的体制を整えてきた。これからやるべきことはどんどん増えてくると思うので、見越してやっていきたい。

三井委員 非常に難しい問題であると思う。今後インクルーシブ教育がますます進められていくことは確実だと思うので、教育委員会や学校の受入れ体制・専門性の育成の準備をして欲しい。

佐藤課長 そのとおり我々としても進めたい。

・ 1-(3)-2 学力向上支援事業

遠藤委員 外部講師を招いて教職員の指導力向上を図っている、大変大事な事業だと思う。23 年度、どのような講師を招いて、どのような指導内容か。模範事業、研修会の内容はどんなものか。

佐藤課長 平成 23 年度の講師について、小学校は筑波大学附属小学校の二瓶先生、田中先生、中学校は横浜国立大学附属中学校の教官教諭、岩手大学准教授の山崎先生（数学）、文部科学省の調査官（理科）に講師をお願いした。今年度も同様に先進的な取り組みをされている方をお呼びする予定。花巻市の児童生徒相手に直接授業をしていただき、これからの授業で大切なことを提案していただき、授業研究会を開き、最後に講話・助言をいただく。教職員にとっては、好評な事業であり、学校でぜひ実践していただきたいと思い、進めている。今年度までの事業である。

原委員 これから先の予定はないか。

佐藤課長 学力向上については、さらに進化する形で内容を考えていきたい。

○花巻市教育振興基本計画実施計画(平成 24 年度～平成 26 年度)(案)について

・ 1-(1)-2,3 小学校施設維持事業、中学校施設維持事業について

穂高委員 トイレの洋式化について、加えて男子トイレの個室化をしている学校がある。個室化の理由は、個室を使用したことでいじめを受ける、使用できず我慢して自宅に帰る等の児童生徒をなくすためである。花巻市にもそういう考えはあるか。

教育長 洋式化はするが、個室化については毛頭考えていない。むしろ、トイレの出入り口のドアにガラスをはめる等、見えない場所を作らないようにしたいと考えている。

・ 1-(3)-2 指導運営について

穂高委員 先生方の模範授業を見て研究し、力をつけていくことは大事だと思うが、先生方は教材研究ができる学校現場の状況にあるのか。問題が減ってきているという話があったが、現場は非常に忙しく教材研究ができるような状況ではないという声も耳に入ってくる。

教育長 先生方は、毎年同じことの繰り返しの面もあり、チャンスを作りたい。子どもを惹きつけ、子どもに考えさせる授業を展開してもらい、先生方にその中で気づいて学び取って改善して欲しい。子どもの目を自分に向けさせる授業を展開して欲しいという思いから始めた事業。新たな需要に応じていくため、サンセット方式で 3 年間の事業とする。

佐藤課長 教職員は、クラブ活動等の校外活動への対応もあるが、子どもたちのために、意欲を持って熱意を持って取り組んでいる。今年度から、時間外勤務の状況について、四半期ごとに報告する体制をとり、一人の教員に業務が偏っていないか、校内で業務を平準化できないか、会議の精選をする等の状況を把握しながら対応している。

教育長 新学習指導要領において、授業時間数が増えていることが一つの要因。また、家庭の問題（虐待・夫婦の問題等）が学校に持ち込まれており、学校が対応することが以前に比べて増えていることも要因。軽減化を図るため、諸報告をカットするようにしている。ネットワークをつなぎ、パソコンで報告できるように事務の簡素化を図っている。ここの先生の超過勤務の多い事例は学校に事情を聞きながら、改善を進めたい。先生方の熱意だけに頼れる問題ではない。結果的に子どもたちにマイナスにならないよう、あらゆる角度から改善について考えていきたい。

・ 虐待について

穂高委員 子どもたちの虐待について、どのように把握しているか。

佐藤課長 疑わしいケースがある場合は、迷わず通告・通報するように校長会議等で呼びかけられている。学校や近隣から把握した情報・状況について、教育委員会にすぐに連絡がくるようになっている。場合によっては、関係機関と連携を取りながらケース検討を重ね、対応している。

教育長 平成 16 年の児童福祉法の改正で、子どもに虐待が認知された場合は、警察に通報す

ることが義務付けられた。今までは、もし違ったらということで通報を躊躇っていて、全国的に見て、重大な結果を招いてしまった。責任は教育委員会が負うので、認知された場合はまず届け出るよう動いている。子どもたちの状況を見ながら、速やかに報告する体制をとっている。疑わしい場合については、市全体で警察も入り、ケース会議を開いて個々の児童生徒の家庭の状況を把握しながら検討し、対応方針を決定している。

・1-(3)-8 教育用コンピューター設備整備事業について

衣更着委員 高額な数字だが、どのような内訳か。

佐藤課長 内訳は、多くがパソコンのリース料で、その他プリンター等の修繕料である。4年経過すると故障も多くなり、それを見越して5年のリースで配置している。

・1-(7) 健やかでたくましい体づくりについて

衣更着委員 肥満や運動不足が気になる。山間部は通学が車ということもあり、親の責任でもあるが、特に運動不足のような気がする。体力づくりのような事業を置いたらいいのではないか。体験型学習事業は、実際に歩かせるので非常にいいと思う。

教育長 昭和54年を境に全国平均の体力の数値が下がる一方であった。その中でも22年までは全国平均を上回っていた。しかし、23年度は全国平均を下回った。新学習指導要領で体育の授業時間数を増やしている。これは、子どもたちの体力が落ちていることからである。各校で食育を含め、肥満防止・体力の向上を目指している。学校によって、肥満にもずいぶん差がある。原因は、子どもの車の多用化だと思う。市P連でも車に頼っていていいのかという話をする。活発に動かすよう、保育園・幼稚園にも呼びかけ、体力増強・肥満防止に努めていく。学校によっては任意参加で15分マラソンをしている。いずれにしろ、雨も降らないのに学校を二重に取り巻くように車が駐車している状況は異常だと思っている。

衣更着委員 親にも責任が大いにあると思っている。

・1-(7)-2 学校保健管理費について

衣更着委員 薬剤の整備とはどういう内容か。

佐藤課長 需要費として、保健室用の薬剤・プールの薬剤の費用である。

・1-(1)-4 保育所保育環境充実事業について

新湊委員 建物は補修していただいても有難いが、園庭は雨が降ったら水はけが悪い。小学校は立派な校庭だが、保育園の園庭の整備もして欲しい。

教育長 園庭の土壌改良は、現実的になかなか難しいことをご理解いただきたい。学校に隣接している保育園は、小学校のグラウンド・プールを利用するようにお願いしている。

・1-(5)-2 学校安全体制整備推進事業について

新湊委員 学校の環境はいいが、熊が多く出没する、横断歩道がない等、学校に通学するまで

の環境整備をお願いしたい。

教育長 ある先生から、熊から危険を回避するだけでなく、熊と共存している地域の感情もあるという話も聞いた。農林水産部と連携を取りながら、安全のために早期の情報伝達に努めていく。

地域のコミュニティ会議から地域の交通安全の要望を挙げてもらい、警察を通じて県の公安委員会に要望しているが、なかなか採択されないのが現状。交通量との見合いに結論が行くため、なかなか難しい。子どもの安全に関わるので、我々も無関心ではいけないがご理解をいただきたい。

新渕委員 震災の時の一斉メールのように、熊が出没した時に一斉メールで情報を親子で学校と共有できる環境は非常にいい。

・小中学校の団体鑑賞について

坂本委員 団体鑑賞の時に、文化会館のイスのネジが持ち去られたことを聞いた。さらに、水のみ場で噴水のように水を出して遊んで、床が濡れたままの状態ですべて帰っていった児童がいた。

鑑賞の場は、マナーを勉強する大事な場でもあるので、教えるべきことはしっかり教えるべきである。何かの機会にぜひ徹底して欲しい。

教育長 十分注意させたい。数年前にも国会議事堂の見学に行った時、説明に飽きた児童がイスを傷つけてしまったことがある。修理費は高くかかったが、子どもたちは悪気が無く、ただただ飽きてやっている面もある。

昨年度北上の総合運動公園を借りて小中学校の大会をした時、花巻の子どもはあいさつも団体規律も清掃もとても立派だと褒められた。いい面もあることをご理解いただきたい。

・2-1-4 博物館教育普及活動事業について

衣更着委員 東和ふるさと歴史資料館を見学した際、テーマを持って企画していたり、学芸員の説明もあつたりととても良かった。大迫の文化財センターでも、テーマを決めて企画展等しないのか。

中村課長 8月4日から8月19日まで「あんどん凧絵の下絵展」が開催される。大迫のあんどん祭りの元になったのが凧絵であり、大迫の旧家から見つかった凧絵26点と出来上がりの凧絵を北上市の博物館から借りてきて、小さい展示だがあんどん祭り期間中展示している。また、9月から吉村作治の古代七つの文明展に協賛して、総合文化財センターで「岩手の縄文人ってすごい」という展示会をする。12月からアバクチ洞穴から出ている弥生の人骨をテーマにした「アバちゃんがいた時代～弥生の風景～」という展示会を行う予定。決して展示会を行わないわけではないので、ぜひ見に来て欲しい。

・2-1 文化財の保護と活用

小原委員 博物館については、様々な勉強になると思うが、事業費を多く使うのならば、大迫だったら神楽であるとか、花巻に根ざしたもの・人・時間・文化の財産にお金を充

てほしい。箱を使ってほしいという観点が裏に見えて残念である。

教育長 捉え方の問題であるが、人間将来を見越すには、過去を見る必要がある。これからの世界を考えていく時に過去の世界がどうであったかを考えてもらうのが、生涯学習の機会であると思う。博物館教育という原点に立ち返って、歴史を振り返って生涯学習の場に活用していただく。お金はかけるが、一人でも多くの人たちに見てもらいたいと実施したものであるので、ご理解をいただきたい。

・1-(3)-1 学力向上推進事業について

小原委員 花巻型少人数指導について詳しく教えてほしい。統廃合や学区選択制についても、花巻型ではっきり示せば、中身のある再編につながっていくのではないか。

佐藤課長 1クラス30人を超える学級が多い学校に重点的に配置している。9名の配置で、県からも加配されている。T T (1つの学級を二人で授業する)、もっと発展した内容を身につけたい・基礎をしっかり学びたい等グループを二つに分けて授業をする方法を取って、少人数指導を展開している。授業サポーターを配置した学校は、数値としてもC R T検査の結果では成果を上げている。分かる喜び、分からない箇所をすぐに聞くことができ、学習に対する意欲が湧いているという声を聞く。

教育長 学校選択制については、花巻市のような場所で行ったら周辺の学校が無くなり、子どもたちはどんどん中心に集まる（特に中学生）と思う。果たして、スポーツ中心、学業中心でいいのだろうか。先駆的に取り組んだところでも、改善点が見られる。毎年入学してくる子どもが読めない、学校が落ち着かないそうである。学校は、活力の中にも、どこか安定した状況が求められる。それが損なわれると、特に公立学校は人事異動にも影響が出る。場所を区切るのであれば可能かもしれないが、全地域を対象にするとまず踏み込めない。

小原委員 そのとおりだと思う。一つのルールを作る、または、地域ならではの特色があれば、防げることがあるのかもしれない。そういう意味では、増える学校もあるのかもしれない。地域との連携が必要だ。